

Press Release | Tokyo Opera City Art Gallery

Press Release 2022.05.12

ライアン・ガンダー われらの時代のサイン Ryan Gander THE MARKERS OF OUR TIME



《2000年来のコラボレーション（予言者）》 2018 公益財団法人石川文化振興財団蔵 Courtesy the artist and TARO NASU photo: Stevie Dix

国際的な注目を集めるライアン・ガンダー（1976年イギリス生）の東京で初めての大規模個展。ガンダーの作品は、日常生活で気に留めることすら忘れていたあたりまえの物事への着目を出発点として、オブジェ、インスタレーション、絵画、写真、映像などそのジャンルは多岐にわたります。制作の背景には、「見る」ということについての考察や日常経験の鋭い分析など、知的な好奇心が満ちあふれていて、その作品は見る人の思考や創造力を刺激して、私たちにさまざまな問いを抱かせます。意外なもの同士を結びつけ、情報を部分的に隠蔽し、ユーモアをまじえて「そもそも」を考えるきっかけをつくるのは、ガンダーの作品の真骨頂です。作品を前にすれば、思わずクスッとしたあとに、はっとするような発見が待っていることでしょうか。新作を含めて空間全体をひとつの作品として創り上げることを目指す今回の個展を、ガンダー自身も楽しみにしています。

本展は当初2021年に開催を予定していましたが、コロナ禍により延期を余儀なくされました。しかし本人の申し出により「ライアン・ガンダーが選ぶ収蔵品展」を代わりに開催し、絶妙な手法で当館の寺田コレクションに新しい光を当ててくれました。困難な状況でも発想の転換でよいものを。これは「創造する力」を信じるガンダーを象徴するできごとでもありました。今回、満を持しての個展に加え、上階では再び「ライアン・ガンダーが選ぶ収蔵品展」を開催します。二つの展覧会にぜひご期待ください。

【開催概要】

展覧会名 ライアン・ガンダー われらの時代のサイン

会期 2022年7月16日〔土〕—9月19日〔月・祝〕 ＊プレスプレビュー 2022年7月15日〔金〕 予定

会場 東京オペラシティ アートギャラリー

開館時間 11:00-19:00（入場は18:30まで）

休館日 月曜日（祝日の場合は翌火曜日）、8月7日〔日・全館休館日〕

入場料 一般1,400 [1,200] 円／大・高生1,000 [800] 円／中学生以下無料

主催 （公財）東京オペラシティ文化財団

協賛 ジャパンリアルエステイト投資法人

協力 （株）中川ケミカル、（株）リコー、（公財）石川文化振興財団、（株）カイトックホールディングス、TARO NASU

後援 ブリティッシュ・カウンシル

*同時開催「ライアン・ガンダーが選ぶ収蔵品展」、「project N 87 黒坂祐」の入場料を含みます。

* [] 内は各種割引料金。障害者手帳をお持ちの方および付添1名は無料。

*割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

*新型コロナウイルス感染症対策およびご来館の際の注意事項は当館ウェブサイトをご確認ください。

【「ライアン・ガンダー われらの時代のサイン」の見どころ】

●いよいよ、東京で初めての大規模個展

国内では2017年国立国際美術館（大阪）での個展をはじめ、各地の芸術祭やグループ展、アートフェアなどで紹介されてきたライアン・ガンダー。東京の美術館での大規模個展は今回が初めてです。本来、昨年の開催を予定していましたが、コロナ禍による延期を経て、2022年7月の今回、ようやく実現します。世界中で注目を集め続けているアーティストの今を、空間全体で味わっていただく機会です。

●「見る」ことから生まれる問い、そして想像力

ガンダーの作品は、オブジェ、インスタレーション、絵画、写真、映像など多岐にわたります。こうした幅広い制作活動に一貫しているのが、「見る」ということへの考察です。私たちが普段見過ごしていること、あたりまえと片付けてしまっていること、それすら忘れていくことへの注目をうながし、さまざまな問いを抱かせます。この問いは、お定まりのものごとを今までと違った視点で考えるきっかけであり、そこには新しい発見があるでしょう。それが私たちを「創造する」ことへと導くのです。

●時間／お金・価値／教育／よく見ないと見えないもの……

今回の展覧会では、ガンダーの新旧さまざまな作品を組み合わせながら、大きな展示室をひとつの作品として創り上げます。これらの作品ひとつひとつでは、ガンダーが制作活動の初期から持ち続けてきた関心——時間、お金・価値、教育、よく見ないと見えないもの——が俎上にあげられています。私たち誰にとっても大切なものごとの本質とは？ まじめに、少しばかりのユーモアを交えて「そもそも」を考えるガンダーの世界に、頭を柔らかくして飛び込んでみましょう。そこでは、私たちの生きる今という時代のサインがそれぞれに見えてくるはずです。



《はじめに、言葉がある以前、そこには……》2021 Courtesy the artist and gb agency, Paris photo: David Tolley

《ひっくり返ったフランク・ロイド・ライト+遠藤新の椅子、数インチの雪が積もった後》2022 Courtesy the artist and TARO NASU photo: David Tolley



《有効に使えた時間》2019 タグチアートコレクション蔵 Courtesy the artist and TARO NASU photo: Thierry Ball, TARO NASU

《時間の問題にすぎない》2020 Courtesy the artist



《首にかけた重石（時間を無駄にしなかった証）》2019 Courtesy the artist and TARO NASU photo: Stevie Dix

《編集は高くつくので》2016 公益財団法人石川文化振興財団蔵 Courtesy the artist and TARO NASU photo: Yasushi Ishikawa, Okayama Art Summit

《もはや世界はあなた中心ではない》2008 大林コレクション蔵 Courtesy the artist and TARO NASU photo: TARO NASU

●ライアン・ガンダーが選ぶ収蔵品展

昨年4月に予定されていた個展が、イギリスのロックダウンによって延期となったのは開幕わずか4ヶ月前のことでした。途方に暮れた私たちに届いたのはガンダーからの「僕になにかできることはない?」「収蔵品展のキュレーションはイギリスからでもできるのでは」というメッセージでした。こうして「個展あらためガンダーが選ぶ収蔵品展」を全館で開催することとなりました。展覧会は3階、4階それぞれにテーマを設け、「色を想像する」「ストーリーはいつも不完全……」という二つの企画として行いました。ガンダーならではのアイデアで、いずれも驚きの収蔵品展となりました。当館のコレクションが故寺田小太郎氏のプライベート・アイ・コレクションであることを踏まえ、寺田氏のまなざしに注目したガンダー。「すべての人間は、まったく同じものを何通りもの方法で理解する力を持っていること」。今回の収蔵品展にもあっと驚かされることでしょう。



ライアン・ガンダーが選ぶ収蔵品展 2021 左:「色を想像する」展示風景 右:「ストーリーはいつも不完全……」展示風景 photo: 中川周

【書籍情報】

本展の開催に合わせて作品集を発行します。作家自筆のいたずら書きやメモから始まり、初期の作品から最新作まで本展の出品作品が掲載されるほか、昨年の収蔵品展の記録も所収されます。

発行: HeHe (ヒヒ) <http://hehepress.com>

【オリジナルグッズ】

会期中、オリジナルグッズの販売を予定しています。詳細はウェブサイト、プレスリリースにてお知らせします。

【ライアン・ガンダー】

1976年イギリス生まれのライアン・ガンダーは、コンセプチュアルアートの新しい地平をひらく作家として世界のアートシーンで注目を集めています。2019年クストハレ・ベルンの大規模な個展をはじめ各国で展覧会が開催されるほか、ドクメンタ、ヴェネチア・ビエンナーレなどの国際展での展示、2010年セントラルパーク（ニューヨーク）における屋外彫刻などのパブリックアートも知られています。日本では2017年に国立国際美術館（大阪）の個展およびガンダーのキュレーションによる同館の収蔵品展が同時開催されて話題になりました。



Courtesy the artist and TARO NASU
photo: Jon Gorrigan

最新の情報は随時当館ウェブサイト、SNS および特設サイトでお知らせします。

■本展覧会に関するお問い合わせ

東京オペラシティ アートギャラリー 【企画】野村しのぶ 【広報】市川靖子、吉田明子

Tel: 03-5353-0756 / Fax: 03-5353-0776 / Email: ag-press@toccf.com